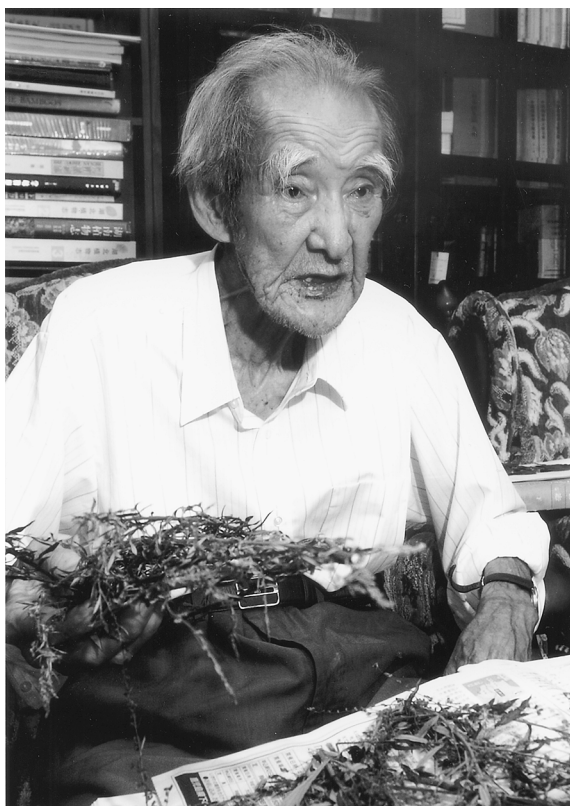


追悼



2006年9月11日 ヨモギを手にした百歳の誕生日。
自宅にて（南日本新聞社撮影，御遺族の提供）。

細山田三郎：初島住彦（1906–2008）先生の業績と思い出
Saburo HOSOYAMADA: Prof. Sumihiko HATUSIMA (1906–2008), Recollection and His Contribution to Botany

初島住彦先生は2008年1月22日お亡くなりになった。1906年9月11日長崎県島原市のお生まれの先生は、享年百一歳であった。謹んで哀悼の意を捧げる。

先生は1931年3月九州帝国大学農学部林学科を卒業、同大学農学部助手、講師、助教授、戦時中は1942年11月から陸軍司政官としてジャワのボゴール植物園勤務、第二次世界大戦後1946年10月九州帝国大学農学部附属演習林業務を嘱託、1948年4月鹿児島農林専門学校（現鹿児島大学農学部）教授で赴任、1972年3月定年退官に至るまで約25年間の長きにわたり植物分類学の研究に没頭された。この功

績に対し鹿児島大学から1972年4月鹿児島大学名誉教授の称号を授与された。先生は鹿児島大学を定年退官後琉球大学理工学部教授に赴任、退官に至る3年間琉球諸島の植物について精力的に研究を進められた。琉球大学退官後帰鹿し鹿児島県植物相の研究、鹿児島植物同好会の指導、九州合同植物観察会の指導など、明解な植物の同定と広い知識を地域住民と研究者に惜しみなく提供された。植物の同定をお願いすると驚くほど早く親切な返事をいただいた。小中学生の夏休みの宿題、植物標本の「名付け会」は毎年とても楽しみにされ、九十九歳の夏までお元気で参加された。

先生は研究において優れた業績を残された。1942年2月ツゲ科植物の分類学的研究により農学博士の学位を取得された。また、海外においてはミクロネシア、ニューギニア、バターン列島における植物の調査研究においても貴重な業績を残された。鹿児島大学在職中は九州南部から南西諸島の植物の解明に努力された。その間多くの新発見があり、発見者の初島先生の名を冠する植物に南九州にのみ分布しているハツシマランや、徳之島北部の一部にのみ分布しているハツシマカンアオイがある。新種や新変種として学会に発表した植物は八十種類を超えている。先生が中心となって採集・蒐集された十万点を超える九州南部や奄美、沖縄などの植物標本は「初島コレクション」として名高く、鹿児島大学総合研究博物館の目玉となっている。

先生は多くの著書を出しておられる。1971年「琉球植物誌」は奄美群島以南の琉球列島に産する植物を記録したもので南西諸島域の植物研究には重要な文献であり、1976年「日本の樹木」を著し、さらに1978年「鹿児島県植物目録」初版、1986年「改訂鹿児島県植物目録」、1991年種子島、屋久島、トカラ列島の植物をまとめた「北琉球の植物」、1994年天野鉄夫との共著で奄美以南の琉球列島の植物をまとめた「増補改訂琉球植物目録」など地域の植物目録を多数出版されている。それらは地域の植物を研究する上でとても便利で多くの人から高く評価されている。2004年には「九州植物目録」を鹿児島大学総合研究博物館の研究報告第Ⅰ号として著した。この目録は九十七歳という高齢になってまとめられ、九州本土のほか、対馬から奄美群島までの各島に分布するシダ植物と種子植物を網羅し、植物の種と分布に関して記述した大作である。将来にわたって分類・地理学的研究を行う研究者にとって欠かすことの出来ない内容となっている。これらの業績は日本はもとより、海外でも高く評価され、1965年西日本文化賞、1996年松下幸之助花の万博記念賞、2002年南日本文化賞を受賞された。

先生との思い出は、私が農学部林学科の専門課程に入り2年生後期講義で造林学を受講するようになった時からである。講義は毎回ノートをとることで終始し、3年生の樹木学

実験でようやく植物分類の方法を教わった。

4年生になると卒業論文を決めるため先生の教室を専攻し、テーマは「南限地帯におけるブナ林について」で、鹿児島県北部に所在する紫尾山の植生を調査することであった。日頃口数の少ない先生だったが指導はとてもわかりやすく丁寧であった。1961年鹿児島大学教育学部に勤務することになり、早速先生のところに挨拶に行くといきなり、「鹿児島植物同好会に入会してくれ」と誘われた。それ以来、2007年12月の例会で509回を重ね、その間先生が例会に行かれる時は私の車の助手席に乗り、途中珍しい植物が目にとまると駐車禁止の場所でも「車を止めてくれ」と言われた。ふりかえると2006年9月先生が百歳を迎えられた記念祝賀会を開催した。当日は台風13号が接近して心配だったが静岡、京都、福岡、熊本、大分からの出席者もあり無事開催でき先生はとても喜ばれた。先生が八十九歳の時「松下幸之助花の万博記念賞」を受賞されお祝いをした時「次は九十歳のお祝いをしましょう」とお話しすると、「僕は百歳まで生きるのその時にしてくれ」と言われた経緯があった。九十六歳で南日本文化賞受賞祝賀会、九十九歳で白寿のお祝いを佐賀県開催の九州合同植物観察会の時にした。

九十歳を過ぎてから先生は中国から入ってきた外来種のヨモギ類を研究されていた。道路、崩壊地法面緑化用の種子に紛れ込んで鹿児島県にも30種あまりのヨモギが入ってきている。在来種との交雑を心配され本年中にまとめて同好会誌に発表する計画だったが実現できず残念である。2007年11月の同好会観察会でヨモギを5種類採集し翌日標本持参で先生宅を訪ねた。同定をお願いしたが、後日来てくれとの返事だったので二週間後先生宅に行くとヨモギは1種同定され、*Artemisia mongolica* Nakaiの学名で和名はついてなく、他の4種類は同定中とのことだった。

2007年12月の観察会は久しぶりに桜島に行き園山池でウラボク、チャボイ、タケコケモドキを観察し、帰路オオヤグルマシダを見つけるため湯之に向かった。場所を探していると60歳前後の地元の男性に出会いその場所を教えてもらった。その日は入山しないで日を改めて挑戦した。風穴と称する溶岩に囲まれ

た凹地に生育しているオオヤグルマシダを見つけた。40数年来の念願のシダに出会うことができ感慨無量だった。デジカメに証拠写真を撮り一枚だけ葉をとり翌日先生宅を訪ねた。先生はとても喜ばれその笑顔が今でも忘れられない。そして「サクラジマイノデは見つからなかったか」と尋ねられたので私はびっくりした。「次に行ったとき探してくれ」と話され、これが先生からの最後の宿題となった。ところが今年（2008）に入り桜島・昭和火口が突然爆発して入山できるか心配である。

先生とお会った最後の日、年末年始を主治医の病院で過ごされ、吉野の自宅に帰られる今年1月8日だった。とても喜んでおられ「まだ元気で大丈夫だよ」と話されたが、

体調を心配していた矢先の1月22日朝先生の訃報の連絡を受けた。先生は「まだ頭は働いていないから植物の研究をもう少し続けたい。植物の世界は知りたいことが山ほどあるからね」と、口癖のように話されていた。約束通り百歳を超えるまで元気で植物の研究を続けられ、私たちを指導して下さいました。吉野の自宅をお訪ねしたときはいつも植物標本の同定をされていて、その姿は誠にすばらしく言葉で表現できない思いであった。このような偉大な先生をそばに持っていた我々はとても幸せだった。有り難うございました。先生の長年にわたるご業績とご指導に敬意を表し心よりご冥福をお祈りいたします。

(890- 鹿兒島市)

堀田 満：初島住彦先生のなされたこと Misturu Hotta: Dr. Sumihiko Hatusima

2008年1月22日、101歳と4ヵ月で初島住彦先生は御逝去された。長寿の方が多かった日本の植物分類研究者の中でも特に長生きをされただけでなく、90歳を過ぎてからも九州や南西諸島の植物に関する論説をつぎつぎに報告をされてきた。さらに初島先生のお仕事の総まとめとも言えるべき「九州植物目録」は先生が98歳のときに印刷出版されたが、「色々間違いがあるのでなるべく早く改定したい」と訂正の準備もされていた。しかしその願いはかなえられず、胆管癌でお亡くなりになった。

先生は、1906（明治39）年9月11日に島原半島で生まれ、鹿兒島高等農林専門学校をおえられ1928年に九州帝国大学農学部林学科に入学、1931年に卒業された。同年4月には同大学助手、1934年4月に講師、そして1942年10月には助教授に任じられた。将来を嘱望された研究者であった。

ボイテンゾルグ時代 太平洋戦争で、日本軍は蘭領東インド（現インドネシア）に侵攻し、ジャワを占領した。その有名なボイテンゾルグ植物園と植物標本館（現インドネシ

ア・ボゴール植物園）に1942年11月には陸軍司政官（ボゴールでの身分は軍属であった）として勤務を命ぜられ、主として木本植物の分類学的研究に尽力された。植物園長は東京帝大の中井猛之進教授が、また博物館長には金平亮三九州帝大教授が着任され、植物関係の同僚としては京都帝大の大井次郎博士が任務につかれた。大井先生は主に草本類（カヤツリグサ科やイネ科など）を受け持たれて、3年足らずの短い期間であったが、収集されていた標本の整理、同定を初島先生と協力して精力的に進められた。所蔵されている多くの標本に両先生の同定ラベルが貼られているが、日付けを見ると敗戦が確定的になってからは死にものぐるいで同定を進められたようである。敗戦とともに中井先生を始め日本の研究者は、捕虜収容所に抑留され、港での人足作業に従事させられたという。

初島先生の2万種におよぶニューギニア植物の完成された目録やブナ科などの木本植物の分類などの研究結果を書き留めていたノート類は、残念なことに軍に没収されてしまった。そして初島先生も大井先生もジャワでの研究成果を論文にすることはごく僅かだった。